| 復興2 | 令和8年度 地域課題研究ゼミナール支援事業　中間報告 | | |
|---|---|---|---|
| 指導教員 | 北陸大学　荒木由希 | 参加学生数 | 15 |
| 課題タイトル | 祭礼を活用した地域活性化に関する教育実践研究　―学生が担う文化の継承と高付加価値化型観光の創出― | | |
| 活動地域 | 七尾市 | 連携団体等 | 七尾市役所 |
| 活動概要 | 能登半島地震により、七尾市の魂である「青柏祭」等の祭礼が存続の危機にある。祭りは人々の絆であり、その喪失は心の復興を閉ざす。我々は昨年、七尾へ幾度も足を運び、市から祭礼存続の支援依頼を受けた。これに応え、アート作品を七尾松原病院へ展示し、住民の心を癒やす活動を実践してきた（添付「HUBプロジェクト」ハンドブック参照）。<br>本事業は、この実績と信頼を基盤とする、次世代が希望の光となる挑戦である。被災した祭りを観光や教育と結びつけ、復興を牽引する生きた資源として蘇らせる。学生や子どもたちが主役となって祭りの熱気を取り戻し、悲しみを乗り越えた「真の七尾再生」と持続可能な未来を力強く切り拓くことを目指す。 | | |
| 活動状況 | 9月20日午前に、参加学生・生徒を対象としたAIアニメ制作の講本プロジェクトでは、能登地域の祭礼文化を次世代へ継承・発信することを目的に、中高生・大学生が地域住民や祭礼関係者への取材・フィールドワークを行い、その内容をもとにAIを活用したアニメーション制作に取り組んでいる。<br><br>2026年7月には、大学コンソーシアム石川の連携事業として、高松中学校、星稜高校、北陸大学、金城大学等の学生・生徒による活動体制を構築した。対象となる祭礼として、石崎奉燈祭、お熊甲祭、青柏祭、宇出津あばれ祭、矢駄の獅子舞等を選定した（10人）。<br><br>8月1日には石崎奉燈祭を現地調査し、祭礼の様子や地域住民の活動を記録した（12人）。8月26日には矢駄の獅子舞の練習を見学し、青年団等へのヒアリングを実施した（3人）。さらに9月5日には矢駄の獅子舞本番を取材し、祭礼の動き、音、地域の伝承や物語について映像・写真・聞き取りによる記録を行った（6人）。 | | |
| 今後の予定 | これまでのフィールドワークをもとに、学生が祭礼の歴史・文化的背景を整理するとともに、AIアニメ化に向けたストーリー、登場人物、脚本、絵コンテ等の検討を進めている。今後は、お熊甲祭等の追加調査を行い、地域住民・祭礼保存関係者の意見を取り入れながら作品を制作し、冬頃の完成・発表を目指す。<br><br>具体的には、9月20日午前に、参加学生・生徒を対象としたAIアニメ制作の講義を実施する。その後、毎週木曜日夜にZoomによる進捗確認を行い、脚本、絵コンテ、映像制作等の進行状況を共有しながら作品制作を進める。<br>11月下旬には完成作品のお披露目会を開催し、地域住民や関係者に成果を発表する。あわせてARを活用した発信・体験企画を実施し、参加者へのアンケート等による効果測定を行う。<br>その後、収集したデータの集計・分析を進め、2027年2月にプロジェクトの成果および効果測定結果を取りまとめ、結果発表を行う予定である。 | | |

**活動の写真**

